



旅はチャレンジ

会員 森田 亜希子 (57期)

1 突然思い立って

「この人生は旅である。その旅は片道切符の旅である。往きはあるが、帰りはない」吉川英治氏（小説家）。アラフィフの私の心になんとも染みる言葉である。新型コロナウイルス感染症拡大以降、もう何年も一所で足踏みしているような、もどかしい気持ちでいた2022年秋、私は、来る春こそ海外旅行にと思い立ち、勢いのまま半年先の飛行機とユーロスターのチケットを購入した。渡航先は友人が暮らすロンドンとパリに決めた。

その後、予約した飛行機は、搭乗までの半年間で、減便のため往きも帰りもフライト変更となった。減便はおそらく感染症拡大の影響だろう。往きの飛行機は、ロシアによるウクライナ軍事侵攻の影響を受け、ロシア領空を避けた北回りルートである。世界情勢の影響を多少受けながらも、とにかく私は、勢いを維持したまま欧州に旅に出た。

2 旅のデジタル化

渡航先のロンドンとパリでは、家族所望の観光地を順番に巡った。その際に大活躍したのが、THE LONDON PASS、Get Your Guide等のアプリ又はウェブサイトである。多くの観光地は、事前にこれらのデジタルツールで日時指定の予約を取り、あるいはチケットを購入する必要があったため、スマートフォンが大活躍、毎日電池の残量にドキドキした。

3 ますます便利な通信環境

海外旅行にはレンタルWi-Fiと信じて、私は今回もWi-Fi端末1台をレンタルしたが、家族はいつの間にか自分用にeSIMを購入していた。eSIMは端末機器が不要なので身軽であり、今回は通信も私のレンタルWi-Fi端末以上に良好であったから、羨ましいやら恨めしいやらである。次の機会には私もeSIMにしようと思った。

4 デジタル決済でキャッシュレス

ロンドンとパリの地下鉄は、タッチ決済機能付きクレジットカードがあればSuica・PASMOのような感覚で

乗り降り可能らしい。私は現地ですぐそれを知り青ざめるも、持参したクレジットカードの1枚に偶然タッチ決済機能が付いていたことで事なきを得た。タッチ決済機能付きカードが無いと「詰む」と言っても過言ではないくらいの利用状況なのだが、アラフィフとしては、カードは紛失・盗難対策のため腹巻きの中にしまい込んでおきたいくらいの気持ちも未だあり、少なくとも私は悩ましい。

5 人の熱量・パワーが凄い

2023年3月下旬、パリは年金改革反対ストが続いており、私の観光もその影響を受けた。エッフェル塔、ルーブル美術館、ベルサイユ宮殿等名だたる観光名所の従業員らがストライキ入りし、施設が閉鎖されるなどしたほか、地下鉄も一部閉鎖された。街にはゴミが溢れ、どこぞの広場ではデモが開かれている。さすがフランス革命の国。市民の熱量・パワーがとにかく凄い（ちなみに、この原稿を書いている2023年10月現在も、パリではストが行われているようである。思えば、私の前回訪問時もストで地下鉄閉鎖。私は集合場所まで街を走りまくった。やはり凄い）。

6 片道切符でどこまでも

私の久しぶりの海外旅行は、大過なく、勢いのままに無事終わった。私の片道切符の人生の旅では、自分に限界を設けず、楽しくチャレンジしていきたい。旅はいいですね。



パレ・ド・ジュスティス